

◆28番（森田卓司議員）

皆さんこんにちは。

今議会、代表質問を含めて36人の議員が質問いたしますが、私35人目でございます。あと一人エースが控えておりますので、ぜひエースにつなぐリリースとして頑張っていきたいと思っております。本当は最後を飾りたくて最近2年間いつも抽せんをやっているんですけど、いっつも当たりません。1番になろうと思ってもなれません。きょうたまたま市内LANの掲示板を見ていましたら、きのう、3月7日から西日本宝くじを発売しているそうで、最近宝くじはちょっと売り上げが落ちていて税収も落ちているように聞いているんですけど、もうこんなに当たらないのなら宝くじでも買って、そうしたら当たるかなと思っているところでございます。はい。

それから、ちょっと遅くなりましたが、市長、2期目の当選おめでとうございます。11月議会に言おうと思って興奮して忘れておりました、この機会にぜひ言わせていただこうと思っておりました。

そして、「市民のひろば」でございます。2月号では菅井王位が表紙を飾っておりまして、河田議員もいろんなことを御指導されたとお聞きしているところでございますけれど、河原邸でPR動画の撮影を行って、私もその動画の撮影のときには行かせていただいたんですけど、本当にすばらしい2月号の「市民のひろば」。これはどういう基準で選ぶのか知る由もありませんが、すばらしかったと思います。

そして、さらにすばらしいのが3月号でございます。市長にも来ていただきましたが、タイムカプセル開封式でございます。ちょうど2年前の2月議会で行政の継続性ということで市長に質問したところ、市長もそれはやらないといけないだろうということで、あれからもう2年たったのかなと思っているところでありますが、本当に多くの若い方が実行委員になられて、それを支えるサポーターもいっぱいおられて、合併から10年を過ぎて、やっぱり何となく皆さんが地域で集まるということが少なくなってきたところでありまして、市長はどう感じられたかわかりませんが、多くの人が集まられて、そして地域の一体感を感じるようなイベントになり、そして10年後、20年後の将来に向けてまた頑張っていこうというような連帯感が生まれた事業であったのではないかと思っております。そして、その中で今の40歳前後の方が小学生のときだったみたいで、そういう作文とか書いておりまして、そういうのを見て、森田さん見てやとって見せてくれた人もおるし、そうすると大分思っていたことと違うなとか思っていたようになっていくなとかいろいろ感想は言ったんですけど、本当に皆さん30年がたつのはあつという間だなと思っているのかどうかかわかりませんが、懐かしがって、今のところまだまだ盛り上がっているような感じでした。

そういうことで質問しなくてはいけませんので質問に入らせていただきます。

それでは、大きな1番目、岡山市の人口増加対策についてお尋ねいたします。

岡山市も近い将来人口減少になると予測がされております。そのような事態にならないために移住相談会の実施、東京での相談窓口であるおかやまぐらし移住の窓口、お試し住宅の提供等の移住・定住の促進に対する予算案が提案されています。

これから私が人口増加のための政策としてお伺いいたしますが、もちろん現在岡山市に住んでいる学生、若者を含む全ての市民の方が今住んでいるところに住み続けることが最優先であり、重要であると認識しての質問であることを御理解いただきたいと思います。

まず、地域おこし協力隊についてお伺いいたします。

地域おこし協力隊が初めて岡山市の御津、建部に各2名計4名が導入されて2年が経過しようとしています。当初は隊員の皆様方の身分や活動に対して情報が少なく、地域の皆様方等がどのように接するかで大きな議論になったと記憶しております。しかしながら、隊員の方も地域の皆様方に溶け込もうと現在までそれぞれの地域で町内会の総会への参加、イベント等へ積極的にかかわることによっていろいろと地域の特性等を学び、多分野においていろいろな活動をされています。

私自身は、当初からこの事業は3年の任期途中で活動をやめて帰られたら失敗——失敗という言葉がいいかどうかわかりませんが、まず地域にとってよくない、3年間その地域にいてくれたら成功、そしてそれ以上ずっと定住してくれたら大成功と考えていました。昨年末に、私の発行している議会報告へ4名の地域おこし協力隊の方に投稿をお願いいたしました。その内容から、今のところ地域おこし協力隊としての任期満了後も現在の地域を中心に活動したいとの思いであることを強く感じております。

そこでお尋ねいたします。

1、地域おこし協力隊事業を本市で初めて導入して約2年が経過しようとしています。事業の制度に対して、また隊員の皆様方の活動に対しての御所見をお示しください。

2、本年2月1日から1名の地域おこし協力隊員が新たに導入されています。この2年の間に同事業で隊員の家族を含めた人口は御津7名、建部9名、計16名増加したこととなります。人口増加に大いに貢献していると思うが、いかがでしょうか。

3、任期も残すところ約1年となりました。隊員が希望するなら岡山市として任期満了後の隊員の活動に対して丁寧に対話とアドバイスをして安心して永住することができる環境整備に努めるべきではないでしょうか。

4、牧山地区と千種学区に地域おこし協力隊の導入を計画されていますが、現在の状況をお示しください。また、その他地域への導入計画があればお示しください。

次に、Uターン者の支援についてお伺いいたします。

今議会冒頭の市長提案理由説明で、健康で長生きしたいという市民の願いをかなえるため、運動、生きがい、食生活に着目した健康寿命延伸施策に引き続き取り組む、高齢者のまだまだ働きたいというニーズに十分応えられていなかったため、来年度から生涯現役応援センターにおいて高齢者雇用に意欲のある企業と就労支援に向けた仕組みづくりを行う

と表明されております。例えばの話ですが、岡山市に生まれ、大学へ進学、就職等で他県に転出して長い間他県で活躍、生活し、その間には子どもも生まれ、そしてその子どもたちも独立し、定年退職を迎え岡山市へUターンを考える方、また若くして他県に転出したがふるさと岡山に帰って仕事や地域活動を行いたい人がUターンを考える選択肢となるべき政策を考えるべきだと思います。

そこで提案です。

今もいろいろな移住・定住政策を行っていますが、補助金制度等インセンティブ制度を考えてみてはいかがでしょうか。

次に、学生、若者の岡山市への定住支援について。

この項は本日、岡山県議会でも同様の質問というかこれを取り上げて質問されていると先ほどお電話して聞いたら言われておりました。岡山県予算資料からの抜粋ですが、岡山県では東京圏からのUターン就職を促進するために従業員への奨学金返還支援制度を設ける中小企業に対し当該企業の負担額の一部を支援する中小企業Uターン就職促進奨学金返還支援事業が平成30年度当初予算で知事査定により追加事業となっています。東京圏からのU I Jターンの方のみ対象で、補助対象の中小企業は岡山市を含め県内全域で、奨学金の種類は日本学生支援機構のみが対象となっています。

1、岡山県の事業である中小企業Uターン就職促進奨学金返還支援事業を活用するべきだと思うが、いかがでしょうか。

次に、全国的に大学進学や就職のために市外に転出した人が市内にUターンした場合、奨学金の返還を補助する制度やより実態に即した内容に改めている自治体があります。県内でも津山市や高梁市が奨学金返還事業を行っています。岡山市でも独自の奨学金制度があります。

そこでお尋ねいたします。

2、学生、若者のUターン支援のための奨学金の免除制度の導入を考えてはいかがでしょうか。

次に、大きな2番目です。旭川のライブカメラについて。

清流旭川は岡山市の中心部を流れ、豊かな自然環境の源となり、旭川水系に住む方々の心を癒やしています。一方、近年では異常気象による濁水も発生し、農林水産業に多大な被害を及ぼすことがありました。逆に連続した台風の直撃、局地的な豪雨により浸水被害も多発しているところです。国土交通省川の防災情報のライブカメラの設置箇所は、旭川合同用水堰までです。その地点から上流の旭川本流にはカメラの設置はありません。旭川ダムから旭川合同用水堰間の旭川に防災情報のためのライブカメラを設置することでダムの放流等での水位等がわかり、避難等の判断を迅速に下すことができると思います。ライブカメラの設置についての御所見をお聞かせください。

以上で1回目の質問を終わります。

御清聴ありがとうございました。(拍手)

◎大森雅夫市長

先日、私もタイムカプセルをあけるセレモニーに同席させていただきました。30年前って建部の皆さんがどんなことを考えていたのかというのを少し気になっていたんですが、あの当時というのは岡山空港ができる、また瀬戸大橋が開通するというで非常にわくわく感があったというような感じがいたしました。多くの人が集まり、すばらしい会だったと思います。ただ、30年のほこりってすごいですね。ほこり多き建部だったと思います。

私、地域おこし協力隊についての隊員の活動に関する所見ということであります。

平成28年度から御津・建部地域に4名の地域おこし協力隊が配属されています。地域に溶け込み、交流しながら多岐にわたる活動に取り組んでいると聞いております。私自身、昨年8月に4名の方と面談し、お話を聞かせていただきました。皆さん大変明るく、地元の方々との交流について非常に快活にお話ししていただきました。本当に溶け込んでるんだなという印象でございます。若者、ばか者、よそ者という話も今回も出ておりますけれども、こういった隊員の活動というのはやっぱり地域に新しい風を吹き込んでいるんだなと思っているところであります。引き続きこの制度を活用して人材を積極的に誘致し、地域力を高めていきたいと思っております。

以上です。

◎鉄永正紀政策局長

岡山市の人口増加対策についての項、地域おこし協力隊についての中で牧山地区、千種学区の現在の状況、その他地域への導入計画についてお答えいたします。

北区の牧山地区、東区の千種学区については、12月から募集を開始し、牧山地区について4月から2名の採用が予定されており、千種学区は現在応募者1名の審査を行っているところです。その他の地域としては東区の犬島地区、南区の宮浦地区において地域住民や関係各課と募集内容等の協議を継続しております。

◎江田美幸市民協働局長

同じ項、Uターン者の支援についての中、補助金制度等インセンティブ制度を考えてはどうかという御質問です。

岡山市では移住希望者に対する金銭的な支援といたしまして、平成27年度から東京圏の方が岡山市で企業面接を受ける際の交通費の一部助成制度のほか、県外にお住まいの方を対象に最長6カ月の家賃等の一部を助成するお試し住宅の制度を設けております。お試し住宅につきましては、平成27年度、平成28年度に利用された27世帯67人のうち24世帯62人が補助終了後も引き続き岡山市に居住されており、一定の効果があったものと考えております。今後も各事業の検証や移住希望者の方の御意見を参考により効果的な支援制度のあり方について研究してまいります。

以上です。

◎田中克彦岡山っ子育成局長

同じ項、学生、若者の岡山市への定住支援についての中、学生、若者のUターン支援のため岡山市の奨学金の返還免除制度を導入してはとのお尋ねにお答えいたします。

岡山市では経済的理由により修学困難な方に対し無利子の貸与型奨学金制度を設けているところです。その償還金は次期奨学生への貸与の原資とすることで制度運用を行っており、世代間の公平性を初め財源確保などの課題があり、償還免除制度の導入については困難と考えます。

以上です。

◎堤修治産業観光局産業政策担当局長

同じ項、岡山県の中小企業Uターン就職促進奨学金返還支援事業の活用についてです。

当該県事業については、市内（後刻、「県内」と訂正）中小企業向けの施策であり、県の広報手法もあることから、県と連携しながら対応したいと考えます。

以上です。

◎山地由記北区長

同じ項、地域おこし協力隊についての中、人口増加に貢献していると思うがどうか、任期満了の隊員が安心して永住することができる環境整備をとのお尋ねにお答えいたします。

人口減少が顕著な御津・建部地区において地域おこし協力隊の導入による16名の移住者は貴重であると考えます。御津・建部地区に配置されている5名の隊員のうち3名が平成31年3月末、1名が5月末で任期終了を迎えますが、議員御指摘のとおり地域おこし協力隊は地域に定住、定着してもらうことが目標であり、このため御津・建部支所においては隊員が意見交換を行える定期的な会議や地域おこし協力隊をサポートするNPO法人等による隊員への助言、アドバイスなどの支援により隊員の自立、定着に向けての取り組みを行っているところです。これからも隊員一人一人の意向を酌み取りながら、任期終了後にこれまで培ってきた地域住民等とのつながりを生かして安心して住み続けられるように支援を行ってまいりたいと考えております。

以上です。

◎桐野眞二下水道河川局長

旭川のライブカメラについてお答えします。

ライブカメラは、河川水位の状況等をリアルタイムで視覚的に確認でき、大雨時等差し迫った危機を実感でき、危険を冒して現地を見に行くことなども防止できるため、防災上有意義であると考えております。議員御指摘の区間は岡山県の管理となっていますから、今後ライブカメラ等の設置の必要性を県に伝えていきたいと考えています。

以上です。

◎堤修治産業観光局産業政策担当局長

濟いません。先ほど私の答弁で県のUターン就職促進奨学金返還支援事業で「県内中小企業向けの施策であり」と申し上げるべきところを「市内中小企業向け」と申し上げました。訂正させていただきます。濟いませんでした。

◆28番（森田卓司議員）

それでは、一問一答で質問させていただきます。

まず、地域おこし協力隊でございますが、先ほど投稿していただいた内容を全部言おうと思ったんですけど全部言えば長くなりますけれど、1人の人は、「来年度は卒業の年ですが、今まで習ったことで御津地域が少しでも発展できるような活動に注力できたらと思っています」と。また、そのほかの方は、「私は地域の将来の不安を伺い、空き家サポートを事業化することにしました。地域に必要なことはまだまだ多いです。これからも何とぞよろしくお願いいたします」という投稿とか、「たけべ八幡温泉のチラシやホームページ制作及びPRセミナー・イベントの開催等をしていきます」。そして、最後にこの方はさっきの宮浦地区にも説明会に行かれたと聞いておるんですけど、「自然のあるのどかなまちというイメージ。自分の仕事はまだ決まっていますが、そんなイメージを大切に今後も建部町に住もうと思っています」というような投稿をいただいております。ですから、4人ともこのまま定住してくれることを願っているところでございます。

その中で平成29年に改定された岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略のKPIで平成31年に地域おこし協力隊は10名とされていますが、このKPIの人数は超えてもいいのでしょうか、どうでしょうか。

◎鉄永正紀政策局長

まち・ひと・しごと創生総合戦略の中で今御指摘ありました目標値を設定しておりますが、上限値ということではございませんので、これを超えるという場合もちろんあります。今後も採用を続けますが、そういう目標値も達成できるように取り組んでいきたいと考えております。

◆28番（森田卓司議員）

ぜひ地域に新しい風を吹き込んでくれる優秀な人材がふえることを期待しています。そして、残るとしても地域おこし協力隊の任務が済んで、今から仕事を探したりすればいいんでしょうけれど、やはり何か起業することを考えると、それに対しての支援が必要ではないかと私自身思っているんですが、そのような制度はあるんでしょうか。

◎山地由記北区長

協力隊員の最終年次または任期終了翌年に起業に要する経費を1人100万円を上限とす

る国の財政措置がございます。それをもとに平成30年度当初予算で起業支援補助金として計上させていただいております。

以上です。

◆28番（森田卓司議員）

そういうことは今の4名の方とは話しているのかもわかりませんが、そういうことも引き続き十分お話をしながら残っていただいで頑張っていただくようなことをやっていただきたいと思います。

Uターン者の支援についてでございます。

例えばの話ですがとって言ったのは僕の友達のこととか同級生なんかのことなんですけれど、やっぱり東京とか大阪とか他県に行って、もう子どもも独立して家も建てたけれど、もうその家も子どもにやって、やっぱりふるさとに家があれば自分の家に帰ってこよかなというふうなことも考えている人がたくさんかどうかかわからないけれどおるんですよ。だから、そういう方が岡山市に帰ってきてくれることで人口減少にも歯どめが若干でもかかるであろうし、そういうことを考えていただきたいと思っています。先ほどより効果的などと言われたんですが、具体的な施策を考えられていればお示しください。

◎江田美幸市民協働局長

より具体的な支援制度につきましては、現在の制度といたしますか施策の検証をする一方で、何かより効果的なものがないかということについて引き続き研究してまいりたいと考えております。

◆28番（森田卓司議員）

ぜひいろんなことを考えていただきたいと思います。

それから、県のことしから始まった制度でございます。きょう県議会で一般質問をされる方に尋ねたら、やはり東京圏からだけではいけないのじゃないかというふうなことを聞こうと思っていると言われておりました。今の時間、もう聞かれていると思うんですけど、そういう部分でいえば局長がさっき言われた限定された地域というのよりはもっといいことを考えるべきではないかなと思います。岡山県の制度を見守りながら、すぐ来年度からとかというようにはならないと思うんですけど、そういうことを見守ると同時に、政令市岡山でございますので、岡山市独自の制度の検討も考えていくべきだと思いますが、いかがでしょうか。

◎堤修治産業観光局産業政策担当局長

若者の市内企業への就職というのは重要なことだと考えております。今回、県の事業に基づいてどれぐらいの中小企業の皆様方がそういった制度を活用されるのか、そういった

動向も注視しつつ、私どものほうとしてもさまざま検討を重ねたいと考えております。  
以上です。

◆28番（森田卓司議員）

次に、奨学金の制度でございます。

他県とか他都市がしていることをそのまましたらいいのではないかとかそういうことを言うわけではないんですけれど、他県では例えば静岡県の磐田市ではUターン就職で奨学金返済助成というようなことも今年度から取り組んでいるみたいですし、それから滋賀県の米原市では定住促進で給付型奨学金というような制度も考えられております。そういう若者の市内居住とか岡山市に居住を条件にぜひとも、先ほどと同じことの繰り返しになります。他都市と同じような制度とは言いませんが岡山市版定住促進支援策というのを考えることはできないでしょうか。

◎堤修治産業観光局産業政策担当局長

先ほども申し上げましたが、若者が市内中小企業へ就職して岡山市内に住んでいただく、そして家族を持つということになると将来的にやっぱり人口減少への対応にもなると考えておりますので、私どもといたしましては、今年度もそうなんですけれども、若い方を中心に市内の中小企業をとりあえず知ってもらわないと前に進まない。まずは奨学金があるからじゃあどこへ住もうかということではなしに、やっぱり若い方に岡山市にこういった中小企業があるというところに今は力を入れてやっていっておりますので、さまざまな他都市の状況等も把握しながら検討したいと考えております。

以上です。